

-  遺跡・史跡、歴史上の名所
-  神社・仏閣、歴史的建造物
-  歴史上の人物など
-  祭り 伝統行事
-  美術品
-  伝統芸能など
-  景勝
-  生物・花
-  町並み
-  etc その他



0m 500m 1km

敬業館



寛政6年(1794)7代藩主建部政賢が建てた藩校。士族の子弟は8歳になると必ず入学し、庶民も志願者には入学を許可した。9代藩主建部正和のとき、河野鉄兜が敬業館の教授となる。講堂は全国的に見ても貴重。市指定重要有形文化財。



道林寺



真言宗の寺で享保年間に順正の開祖。三方を山が囲む閑静な地で、林田八景の一つに数えられた。敬業館教授の河野鉄兜は、住職とは特に親しく交わり、死後ここに墓がつくられた。墓碑には「文崇先生之墓」と刻んである。



西池(鴨池)と琵琶山



初代林田藩主建部政長が水利に苦しむ領民のため、高い位置にある田畑へ水を引く目的に築いたため池で鴨池とも呼ばれる。林田八景のひとつとして数えられ、鴨の飛来地としても有名。



長谷川家住宅・八重垣



長谷川栄雅が寛文6年(1666)に酒屋と木材商を開き、1690年に酒造りを始める。1839年に地頭から酒株を受領し、明治14年に蔵名となる「八重垣」が生まれる。山陰へ通じる旧因幡街道にあり、市の都市景観重要建物等に指定。



祝田神社



寛治7年(1093)に林田が京都の賀茂別雷神社の荘園になった時、賀船神社の御神体を迎え、はじめの岡造女命と共に祀り、「賀船社」又は「賀船大明神」と呼ばれる。明治16年、焼失からの再建時に旧社名の祝田神社(はふりだ)となる。



林田(三ツ池)の里山



姫路市はやしだ交流センター南東に広がる広葉樹の森。広葉樹林に囲まれた美しい自然環境の中でハイキング、散策が楽しめるエリア。



はやしだ交流センター 天然温泉ゆたりん



平成19年オープン、深さ1,338m、約2億1千万年前の堆積岩(丹波層群)の割れ目から湧き出す天然温泉。大浴場、露天風呂、薬湯、サウナなど内容は充実している。足湯、野菜直売所、お土産店、レストラン等内外施設も充実。



林田大庄屋旧三木家住宅



三木家の祖は英賀城主三木氏と伝わる。英賀城落城後、林田の聖ヶ岡に居住し大庄屋をつとめる。3代目定久の時、現在地に移った。主屋は17世紀後半の建物とみられ、主屋、長屋門、土蔵等6棟が県指定重要有形文化財になっている。



林田藩陣屋跡・聖ヶ岡



林田藩建部家は元和3年(1617)播磨国林田に封地を移し、聖ヶ岡に陣屋を構えた。建部家は江戸期の繁栄を経て、明治2年大政奉還まで、10代250年にわたって林田を治めた。平成24年に陣屋跡石碑建立。



林田八幡神社



寛平5年(893)京都の清水八幡宮から八幡の神を迎えて創建したと伝わる。境内には、藩主政宇(まさいえ)・政賢・政醇が奉納した灯籠が3つ並んでいる。社殿内には、「林田八景」など建部家ゆかりの品々が残されている。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プラン」の構築

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

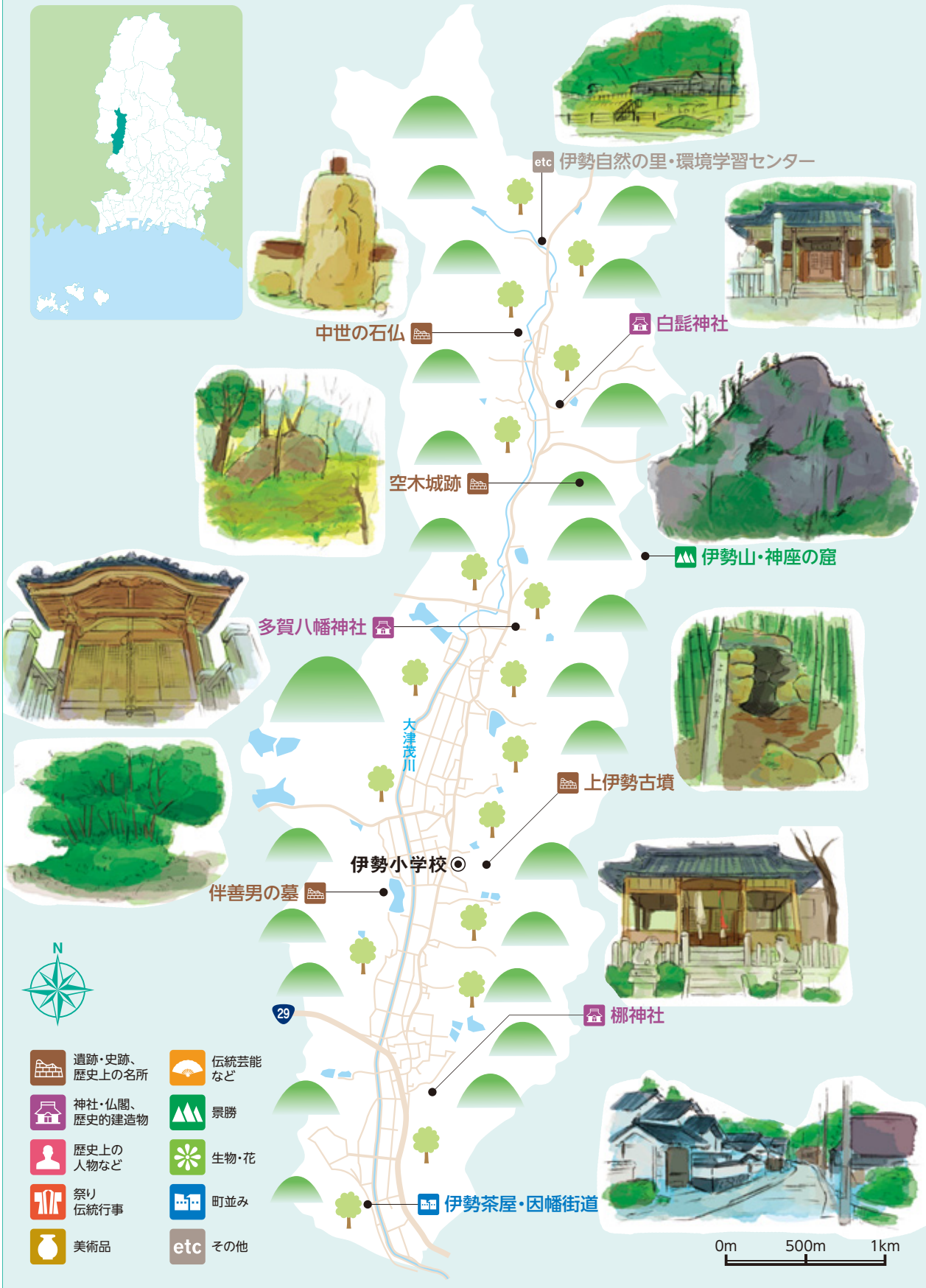
4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧

26

伊勢地区

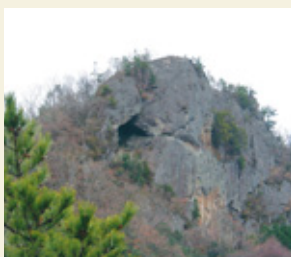
別紙MAP
C-4・5



伊勢山・神座の窟



伊勢山は東側の本峰(標高478.6m)と、神座の窟がある西側の岩峰がある。神座の窟は、高さ55m、幅70mの天然岩窟。「播州名所巡覧図絵」にも記載され、不動明王・弘法大師・役行者の小さな石仏三体が安置されている。



白髭神社



大堤宇東山に1688年創立され、猿田彦命を祀る。境内には、寛政9年(1797)の御神灯や明治42年の開墾碑がある。



伊勢自然の里・環境学習センター

etc

里山の自然豊かな環境を保全し、子どもから大人まで、様々な世代が楽しみながら環境の保全について学習できる場として、市が平成16年4月24日に開設した自然体験型の環境学習施設。



多賀八幡神社



上伊勢宇追谷山麓にある。創立期は不詳。当初は八幡神社として誉田別尊(応神天皇)を祀るが、明治39年に豊受大神を祀る上伊勢宇湯屋谷の多賀神社を合祀。境内には1817年と1821年の石燈籠や1845年の狛犬がある。



伊勢茶屋・因幡街道



因幡街道が伊勢茶屋・追分・六九谷を南北に横断し、旅籠や立場(休憩場)があった。鳥取藩主や山崎藩主の参勤交代記録に、伊勢茶屋の様子が記載されている。



中世の石仏



大堤集落の北西に祀られている凝灰岩製の石仏。全長40cm、横幅30cmで、両手を合掌した形の地藏立像で、中世の石仏の様相である。



空木城跡



山頂に主郭とみられる削平地があり、「播州名所巡覧図絵」には、「岩屋赤松遠見城跡」とある。「揖保郡地誌」には、嘉吉元年(1441)ごろ赤松の家臣小野七郎右衛門が居たとあり、天正のころ原田大炊助が居城し、秀吉に攻め滅ぼされたとも伝わる。



伴善男の墓



下伊勢の大池北部に塚がある。大伴氏の子孫で、応天門焼失の犯人として866年に伊豆に流罪、868年に没したという説が一般的であるが、「峰相記」では、天慶年間に播磨国に流罪となり、墓所は西川合にあると記載されている。



上伊勢古墳



伊勢小学校の東方の竹藪斜面にある。玄室は奥行3.37m×幅2.17mの横穴式石室。天井石は一枚の大きな板石を用いている。



榊神社



垂仁天皇のとき天から十二の幡が舞い降り、その一つが下伊勢の榊の枝にかかり、天照大神が現れ、県主の葦原飯粒が十二碑の地に、天神7代・地神5代を祀る。その時、榊の大木を切った跡に天照大神を祀ったので榊神社と名づけた。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プランの構築」

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

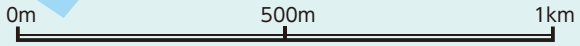
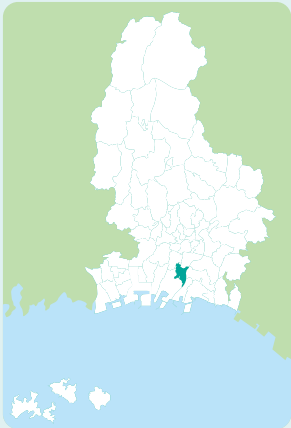
4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧

高浜地区

別紙MAP
E-7



- 遺跡・史跡、
歴史上の名所
- 神社・仏閣、
歴史的建造物
- 歴史上の
人物など
- 祭り
伝統行事
- 美術品
- 伝統芸能
など
- 景勝
- 生物・花
- 町並み
- etc その他



大歳神社(飾磨区上野田)



もと南条と上野田の氏神であった妙見大明神社を明治初年に大歳神社に改めた。昭和57年の市川西区画整理に伴い、南条の大歳神社移転改築の際に、その分霊を勧請し平成6年に上野田大歳神社として祀ったもの。



天満神社(飾磨区堀川町)



堀川町の氏神で祭神は菅原道真。天明期に恵美酒神社から菅原大神を勧請して祠が創建されたと思われる。大正10年に社殿を大改築、昭和7年に大鳥居が寄進される。昭和27年に「天満神社」の認証を県より受け、平成14年大改築。



地藏堂(飾磨区三宅)



飾磨街道の東にある地藏堂。もと天満神社境内にあったが、江戸末に今の場所に移された。内部には地藏像、五輪塔や層塔の残欠がある。左端の水輪二個は「太平記」に登場する児島高德の墓と言われ、児島と高德の文字が残る。



天満神社(飾磨区三宅)



飾磨区亀山・三宅の氏宮で、菅原道真を祀る。「飾磨郡誌」に郷土史家の説で、「播磨国風土記」の因達里のイダテの神を祀ったもので、後に菅原道真を祀ったため元の神名が消えたのではないかと記す。寛政7年(1795)の宮型燈籠がある。



順正寺



浄土真宗本願寺派。元禄4年(1691)に本願寺派第14代寂如上人より開基佛として木像の尊像を授かり、海上山順正寺と公称したとみられる。明和3年(1766)に本堂伽藍を建立。昭和45年に再建され今日に至る。



早川神社



速川社とも称し、阿成の氏神で兵主神(大己貴命)を祀る。市川の自然堤防上にあり、「播磨国風土記」の倭穴無神の神戸の所とみられる。その分霊を祀ったのが早川神社で、神名からこの地を「アナシ」と呼び、江戸期に阿成となる。



松林寺



真宗大谷派。もとは中島にあった天台系の寺院。真宗に改宗後、万治年間(1658～61)堂宇が焼失したので寛文13年(1673)現在地に移った。境内の手洗い石は安政6年(1859)のものである。



道しるべ地蔵



早川神社の東方・市川堤防下にある。安政年間(1854～60)には阿成の“渡し場”にあったが、昭和43年に現在の堂に移したという。「左かめやま、右ひめじ」の文字と上端部に仏像を彫っている。



高浜総合公園



戦後間もなく都市計画決定されていた高浜中央公園が姫路市高浜東区画整理事業によって整備された。平成11年に開設、平成16年に現在のように整備され、供用面積は4ヘクタール、多目的広場、テニスコート、遊具がある。



三宅遺跡



「播磨国風土記」の飴磨御宅(シカミヤマケ)に比定される遺跡。昭和45年の姫路バイパス工事で、大量の古瓦や土器類が出土(発掘調査は実施されず)。姫路バイパス姫路南ランプを中心に500m四方と推定されるが、大部分は消滅。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プラン」の概要

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧



恵美酒宮天満神社



漁場の神として戎の神を祀ったので恵美酒宮といい、後に天満宮を勧請してこの名称になる。京都の吉文字屋孫作の寄進による社前の石灯籠は、元禄11年のもの。狛犬は尾道の石工・嶋屋勘十郎の製作（尾道形狛犬）で、天保15年のもの。



知宝寺



もとは、光明寺と称し、天台宗であった。寛和元年(985)花山法皇が書写山行幸の際に立ち寄ったので、当時は御幸堂とも言った。建永2年(1207)法然上人が土佐へ流される途中に立ち寄ったのをきっかけに、浄土宗になった。



恵美酒宮天満神社秋季例大祭



「恵美酒宮祭り」は「台場練り」と言われ有名。大屋台は80人余の練り子が昇くが、神前において神に屋台を奉納する時は、より優れた力の持主が80人余の練り子に代わり24人で台場を昇き、男の力強さを神に示す。



天満神社(飾磨区中島)



祭神は菅原道真。創建年代は不詳。飾磨の恵美酒宮より分霊を勧請したという。蓮浄寺門前にあったが、元禄7年(1694)再建を機に現在地に移る。「播州名所巡覧図絵」に「濱の天神という楼門・大鳥居あり」とあるが、現在楼門はない。



大森源三翁紀功碑



大森源三は、文化8年(1811)三木勘兵衛(勘兵衛新田の干拓者)の二男として生まれ、大森家の養子に。天保10年(1839)より24年かけて「大森新田」(約40町歩)を開拓、没後、村民一同により紀功碑が建てられた。



中島天満神社秋季例大祭



昭和29年までは、大屋台1台とだんじり1台で秋祭りを行っていた。昭和51年に小屋台と中屋台を新調し、古いだんじりと共に屋台を練り出し秋祭りが復活。平成6年には大屋台を新調。



亀山本徳寺門前



本堂を焼失したとき、播州門徒の強い要請で京都から移築。「播州真宗年表」等によると、構造・床材、屋根瓦に至るまで、海路飾磨津に運ばれ、飾磨街道を経て亀山に運ばれた。2年に渡る工事を経て、明治6年に完成。



薬師寺(東光院)



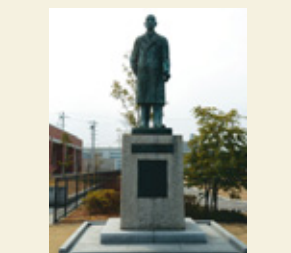
草創年代は不詳、「飾磨薬師寺」と呼ばれ、七堂伽藍も完備していた頃もあった。後に、赤松氏より寺領200石等が寄進された。秀吉の信仰も厚く守護寺になった。正徳3年に恵賢が中興し、東光院と改めた。戦災で焼失後、昭和28年再建。



初代飾磨市長の銅像



岡上彦三は、明治13年8月大浜に誕生。明治45年の飾磨郡会議員を振出しに、飾磨町会議員、飾磨町長(昭和6年～同15年)を務めた。昭和15年「飾磨市」として市制施行後は、初代市長を務めた。



蓮浄寺



「飾磨郡誌」によると浄土真宗本願寺派。永正14年(1517)開基。寺号を付したのは慶長2年(1597)とある。江戸時代に二度火災にあっている。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりからこれまで～

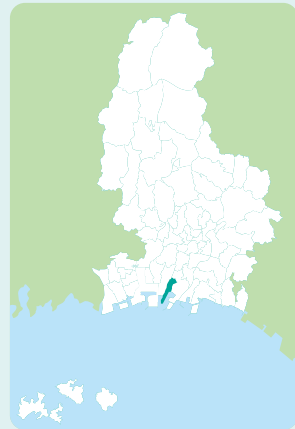
2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プラン」の概要

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧



地蔵尊(西細江)



中島家



高倉大明神



浜の宮天満宮と
秋季例大祭



グリーンベルト完成記念碑
etc

船場川



藤田翁顕彰碑

飾磨小学校

赤レンガ造りの
倉庫

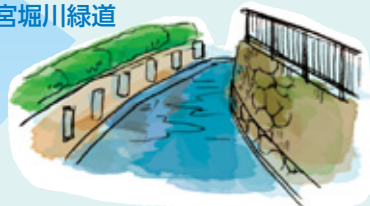


姫路藩浦手番所跡

魚屋堀跡碑・
尊王志士上陸地碑



宮堀川緑道



- | | |
|------------------|------------|
| 遺跡・史跡、
歴史上の名所 | 伝統芸能
など |
| 神社・仏閣、
歴史的建造物 | 景勝 |
| 歴史上の
人物など | 生物・花 |
| 祭り
伝統行事 | 町並み |
| 美術品 | etc その他 |

0m 250m 500m

赤レンガ造りの倉庫



明治9年に完成した官営生野鉱山馬車道の旧飾磨津物揚場跡に残る倉庫。フランス人シスレーの設計で、約70万個のレンガを使用し、レンガの積み方はイギリス積みと言われる。日本初の高速道路とも言われる「銀の馬車道」の終着点。



中島家



北前船の廻船問屋で、主屋の向こう側には土蔵が建ち並んでいたという。主屋は間口6間、奥行6間半もある大型の町家である。外観は、2階に小さな虫籠窓を開け、1階には出格子を構えるなど、伝統的な形式が保存されている。



魚屋堀跡碑・尊王志士上陸地碑



魚屋(うおや)は岡上家の屋号。幕末「生野事件」を起こした志士平野国臣らがこの地の上陸した。門前の「魚屋堀」と呼んだ。堀の大部分は昭和6年の臨海道路築造の時に埋め立てられた。



浜の宮天満宮と秋季例大祭



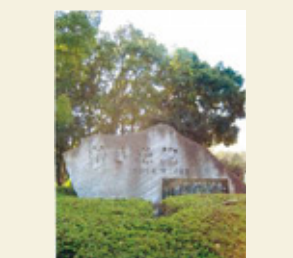
境内の「えべっさん」は宮と須加の4ヶ所から移したと伝わる。漁業の神の夷神を祀ったものが祭神で、それに菅原道真の天神信仰が重なったと推察。「サイテバチョーサー」の掛け声で屋台を差上げる台場差しは市指定無形民俗文化財。



グリーンベルト完成記念碑



公害を防止するだけではなく、住みよい街をつくることはできないと考えた市は、昭和46年から工場が密集する地域にグリーンベルトを造る。広畑東地区から妻鹿地区まで約7kmに及ぶ。現在は、桜の名所となっている。



姫路藩浦手番所跡



姫路藩が設置した番所で、飾磨津川口御番所とも呼ばれる。主な任務は、灯籠台管理、船舶検問、海難救助や飾磨米蔵、御茶屋の警備など。所在地は未確認だが、飾磨区須加の民家が、番所に併設された長屋の遺構と推定されている。



地藏尊(西細江)



近郊より提灯が数多く奉納されている。名称は不明。言い伝えによると、100年以上前から石仏2体が安置してあったらしい。その後、石仏が増え、祠も建ち、現在のように。門柱に明治44年細江村区長の銘が残る。



藤田翁顕彰碑



弘化3年(1846)200石超の船が入りできない飾磨津河口を改良して湊保(港)が築かれることになり、大浜の肥料問屋・藤田祐右衛門維昌を中心に丸亀港を参考に6ヶ月で完成した。藤田はこの功績により、大年寄格となり苗字も許された。



高倉大明神



中細江公民館の横にあり、通称「高倉さん」として親しまれている。島田タバコ店横に祠があったが、明治28年細江804の溜め池の埋立地に移転。昭和46年拝殿を撤去し、跡地に公民館と社殿を再建。



宮堀川緑道



宮堀川沿いに整備された遊歩道。水と戯れながらの散歩に最適。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プラン」の概要

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧

延命地蔵



真福寺正門の北東に位置する地蔵坐像(設置年代は不明)で、現在の像は昭和12年地蔵堂と共に寄進されたもの。構の地蔵は延命地蔵で、北向きの地蔵は特に靈験があらたかであると深く信仰される。



津田小学校

etc

明治24年今在家の明倫学校と構村の榮績学校が廃止され、津田尋常小が設置された。その後、高等科を併置。昭和8年津田村と飾磨町の合併時に、飾磨尋常高等小に合併。昭和47年飾磨小より分離、津田小が開校。



加茂神塚



国の重文、北野天神縁起巻、津田本第一巻の裏書によれば菅公左遷の時、細江に上陸し、加茂社へ参詣され、社司宅に逗留。出発に際し、所持の杖を記念として突き刺したものが自生し、以後、逆木(榊)天神として信仰されたもの。



津田天満神社



古来、大歳明神を祀っていたが、後に菅原道真を敬慕した里人が、菅公を主神として津田天満神社とし、現在に至る。藤原親泰奉納「北野天神縁起」三巻は、昭和34年国重要文化財の指定を受け、奈良国立博物館に寄託されている。



思案橋(お旅)



明治中頃まではこの一帯は畑地で、船場川の「思案橋」は木製だった。思案橋西詰は津田天満神社のお旅所で、大正13年に菅公小憩伝説地の石碑が、昭和37年に道真銅像が建立された。昭和46年、思案橋はコンクリート製になった。



津田天満神社旧御旅所と中地天神遺跡



天禄元年(970)円融天皇が、現在の地に津田天満神社を造営した。後に、その跡地(構と中地の境付近(中地ランプ南))は中地御旅天神となったと伝わる。現在は、中地南公園内に移り「中地天満神社跡」の碑が中央大路にある。



真教寺



親鸞聖人の直弟子、導味が常陸国に建立した真教寺の十一代目住職導善が、今在家に至って定住し、宝国山真教寺を建立(弘治元年)。その後、寛文年間に道西により中興し文政3年(1820)八世諦忍が本堂を改築し現在に至る。



妙善寺



播磨四カ道場の一つ、永正9年(1512)津田牧水田村妙善寺への開基佛が伝来。伊藤美濃守長英の次男次郎が蓮如上人の教化をうけ善教と名乗り、後祐善と改めて開祖となる。今の本堂は文化5年(1808)、十一世恵巖の改築。



真福寺



永正13年(1516)赤松氏の家臣治良頼善(後に誓俊)が、飾磨区山崎にあった浄土宗の寺を浄土真宗に改宗して、現在地の北西、字真福寺(しぶくじ)に建立。天文年間(1532～1554)に現在地へ移転。



薬師堂



今在家西高長に津田千軒の栄華を伝える明願寺という寺があったが、羽柴秀吉の英賀城攻略の際、焼失。信者が焼跡より明願寺の御本尊を探し出し、津田天満神社内に安置したが神仏同祀の禁止により、現在地に薬師堂を建立し、祀る。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プラン」の概要

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧



英賀瓦工の里 高町



旧高町村北部で瓦に適した良質の粘土が産出し、室町～江戸期に英賀瓦工集団の瓦が生産された。東は京都の東・西本願寺、伏見城、醍醐寺、西は厳島神社などで使われた。地元では英賀神社や旧家に高町の職人銘の古瓦が多く残る。



亀山本徳寺廟所西山支坊



江戸中期「本願寺参り」が定着した。庶民は納骨の為安易に本山にお参りする事ができなかった。そこで、西本願寺分院で播磨の浄土真宗の拠点である亀山本徳寺が廟所として天和2年(1682)に創建。現在も「西のお山」と呼ばれている。



英賀城 本丸跡碑



英賀城は、嘉吉元年(1441)三木通近が入城して、三木氏10代、140年間、播磨地方における政治、文化、宗教の中心となり、寺内町を構成して栄華を極めたが、羽柴秀吉による城攻めにより落城した歴史が記されている。



琴平常夜灯と室津街道道標



町坪の藪山南より山崎山麓を経て夢前川に至る道。金毘羅参りの庶民が頻繁に利用した街道。渡し場の在った夢前川左岸に常夜灯が設置された。山崎には金毘羅さんの分霊が祭られ、略式でこの灯笼に火を入れお参りした。



英賀神社



英賀神社は英賀保校区の氏神で「播磨国風土記」にも記載がある由緒ある神社。英賀城主三木通近が領内の総氏神とあがめ、歴代城主が祭祝盛儀を尽くした歴史、および「銅鐘」「紙本著色天神縁起絵巻」等の重要文化財が残されている。



高町 壇尻と梯子獅子



英賀神社の秋祭りは梯子獅子と壇尻が有名。この壇尻は禁裏御所彫り物師九山新之丞の弟、大橋宗三郎昌信の作であることが判明。九山一族は延宝年代(1675)から神社仏閣に素晴らしい作品を多く残している。現役壇尻では県内最古か。



英賀本徳寺(英賀御坊)跡



城主三木一族、播磨一円の町衆が帰依の下、明応2年(1493)蓮如上人が開基、永正12年(1515)英賀本徳寺が落慶した。この頃、播磨の浄土真宗は隆盛を極めたが、天正8年(1580)秀吉の英賀城攻略にあい、寺基は亀山に移築。



明蓮寺



英賀城内に英賀本徳寺、末寺35ヶ寺があった。落城後は、秀吉の寺内町開放政策により各地に分散させられた。唯一、末寺で当寺だけが残された。夢前川河原にあった、英賀本徳寺跡碑が隣接する当寺境内に昭和13年頃移設された。



英賀薬師(旧法寿寺跡)



城主の一族、河野彦太郎の祖先圓澄が、延宝9年(1681)に建立。亀山本徳寺西のお山にあった英賀城主三木家累代と家臣の墓をここに移す。鎌倉時代作と伝わる「薬師如来」数体が在り、英賀薬師と呼ばれている。昭和43年に再建された。



山崎山(大鷹山)



山崎山は、室町時代から英賀城の砦があり、山崎聡右衛門広宗が守る構居があった。山崎構居は、天正8年(1580)羽柴秀吉の英賀城攻撃の時真っ先に攻められ落城、秀吉の英賀城攻略拠点となった。別名大鷹山と呼ばれる。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりからこれまで～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プランの概要」

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

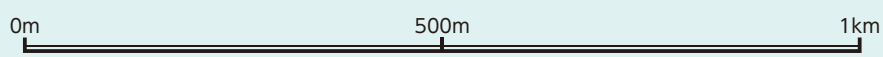
4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧

広畑地区

別紙MAP
C-7



-  遺跡・史跡、歴史上の名所
-  神社・仏閣、歴史的建造物
-  歴史上の人物など
-  祭り 伝統行事
-  美術品
-  伝統芸能など
-  景勝
-  生物・花
-  町並み
-  etc その他



西福寺



寛正5年(1464)開基。弘治年間(1555～1558)に高濱から本町へ移ったと伝わる。その後、真言宗から浄土真宗に改宗し、英賀本徳寺に属したが、寛文8年(1668)船場本徳寺に属し、昭和38年に現在地へ移る。



田中酒造場



田中家は天保6年(1835)に酒造業を始めたと伝わる。建物は母屋・増築部・奥屋敷・店・酒蔵二棟・内蔵からなり、江戸末期以降の建物をよく残している。平成8年に、市の都市景観重要建築物等に指定された。



自治会立広畑保育園

etc

昭和42年に設立された全国でも珍しい自治会立の保育園。「地域の子どもは地域の手で育てよう」という考えが受け継がれ、現在も地域の子育て支援施設として自治会が運営している。



広畑公民館

etc

平成12年に開館。「ほっとふれあい館」として親しまれ、地域の人々の生涯学習の拠点として「集う、学ぶ、結ぶ」活動を展開。



司馬遼太郎ゆかりの地



広畑は司馬遼太郎の祖父・福田惣八の出身地であり、廣畑天満神社境内には司馬遼太郎の文学碑や、祖父福田惣八と父福田是定の玉垣が残されている。



廣畑天満神社



氏神は菅原大神・蛭子大神・春日大神。神社の源記は靈龜年間(715～716)に奉祀された廣辻神社に始まると伝わる。明治31年の龜山雲平撰の碑記によると、明治2年に京都の北野天満宮の分霊を勧請した。



住本家住宅



建築は明治中期。主屋は二階建つし付き、屋根は本瓦葺で西側が入母屋造、東側は切妻造で元の納屋の屋根が続く。土間の上には越屋根が架けられ、二階部分は漆喰で塗籠められている。平成8年、市の都市景観重要建築物等に指定。



本町の道標



JA兵庫西広畑支店の北の道路端にある。花崗岩製で正面には「左 網干港空津 右 あばし駅」、側面には「明治十七年五月施主瀬尾孫次郎」と刻まれている。



蛸田地蔵尊



江戸時代に広畑の沖合いで網を引いていた漁師が異様な獲物がかかったと思って網を引き上げると石の地藏尊であった。時の庄屋が通称蛸田という場所に祀ったので、蛸田地蔵尊と呼ばれる。境内には保存樹のエノキがある。



夢前川の桜並木



夢前川兩岸のサイクリングロードに沿って、桜並木が続いている。春に桜が満開になると、河川敷は多くの見物客や花見客でにぎわう。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プラン」の概要

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧